

祝 創設60周年 海上自衛隊航空集団



航空集団60周年記念ロゴマーク

多数の応募の中から司令部が3つに絞り込み、ツイッターでの投票を募った結果、和柄の「青海波(せいはいは)」に平和と7個の航空群と7個の直轄隊が同じ方向の「志」を目指すことをイメージしたこのロゴに決定した。



繋ぐ～受け継がれる伝統と魂～

航空集団は、護衛艦隊及び潜水艦隊と並ぶ自衛艦隊隷下の部隊である。7つの航空群(第1、2、4、5、21、22、31航空群)と7つの直轄部隊(第51、61、111航空隊、第1、第2航空修理隊、航空管制隊、機動施設隊)から編成されており、北は青森県むつ市から南は沖縄県那覇市まで離島(硫黄島、南鳥島)を含む全国各地に隷下部隊を有している。

航空集団の航空機は、日本周辺海域の警戒監視や地震等発生時の災害派遣その他物資・人員の輸送等に従事している。また、艦艇部隊と協力して作戦を遂行する任務も有している。近年では、ソマリア沖・アデン湾における海賊対処行動にP-3Cを派遣しており、海外における活動の場も広がっている。

P-1と護衛艦



US-2



UP-3CとP-3C



U-36Aと岩国所属航空機



USH-60KとSH-60KとSH-60J



L-C-90



C-130R



ひゅうが艦上のMCH-101

航空集団の歴史

- | | |
|------------|---|
| 昭和36年9月 | 航空集団新編(司令部:下総)、自衛艦隊に編入 |
| 昭和39年6月 | 新潟沖地震災害派遣 |
| 昭和40年10月 | マリアナ沖の漁船群遭難に対し災害派遣(航空集団初の海外災害派遣) |
| 昭和48年12月 | 航空集団司令部、下総から厚木に移転 |
| 昭和49年11月 | 東京湾で衝突・炎上した「第10雄洋丸」の処分のため、射撃を実施 |
| 昭和53年1月 | 伊豆大島近海地震災害派遣 |
| 昭和58年3月 | P-3C部隊運用開始 |
| 昭和58年5月～6月 | 日本海中部地震災害派遣 |
| 昭和58年9月 | 大韓航空機墜落事件に際し、当該航空機の予定航路に沿って空中からの海面捜索を実施 |
| 昭和58年10月 | 三宅島噴火に対する災害派遣 |
| 昭和61年11月 | 伊豆大島噴火に対する災害派遣 |
| 昭和62年10月 | 初の日米共同統合演習 |
| 昭和63年4月 | U-36A部隊運用開始 |
| 昭和63年 | L-C-90部隊運用開始 |
| 平成元年2月 | 「大喪の礼」参列のために訪日した諸外国の元首・弔問使節等の空輸を実施 |
| 平成元年 | SH-60J部隊運用開始 |
| 平成2年11月 | 「即位の礼」に当たり、各国要人の空輸を実施 |
| 平成3年 | UH-60J部隊運用開始 |
| 平成3年11月 | EP-3部隊運用開始 |
| 平成5年7月 | 北海道南西沖地震災害派遣 |
| 平成7年1月 | 阪神淡路大震災災害派遣 |
| 平成9年1月 | 島根県沖 ロシアタンカー「ナホトカ」沈没による原油流出に対する災害派遣 |
| 平成11年3月 | UP-3D部隊運用開始 |
| 平成11年3月 | 能登半島沖不審船事案に際して、初の海上における警備行動 |
| 平成13年8月 | 実習船「えひめ丸」の米原潜との衝突・沈没に対する災害派遣 |
| 平成14年3月 | OP-3C部隊運用開始 |
| 平成15年 | SH-60K部隊運用開始 |
| 平成16年11月 | 中国原子力潜水艦による我が国領海内潜没航行に対する海上警備行動 |
| 平成19年3月 | US-2部隊運用開始 |
| 平成20年3月 | MCH-101部隊運用開始 |
| 平成20年3月 | CH-101部隊運用開始 |
| 平成20年7月 | 洞爺湖サミットに係る警戒監視 |
| 平成21年6月 | P-3C、ソマリア沖・アデン湾において警戒監視を開始 |
| 平成23年3月 | 東日本大震災に対する災害派遣 |
| 平成25年3月 | P-1部隊運用開始 |
| 平成26年12月 | C-130R部隊運用開始 |
| 平成27年1月 | インドネシア・エアアジア航空機墜落に伴う国際緊急援助活動 |